

■ジェンダーを感じてみる

「今度は全員何かの動物になりきって、部屋を歩き回ります。自分が何の動物なのかは、言っただけじゃありません。」

ここでは、鳴き声もいけません。その動物の気持ちになり、しぐさだけで表現してください。その動物は何を食べますか？ どう寝ますか？ どんな場所が好きですか？ 周りのひとの様子も、よく観察してください。」

次に箱の中から、ちいさくたたまれた紙をひとつ取り、周りのひとに見えないように紙を開きます。

書かれていたのは「メスの象」。メスであることを意識しながら象の気持ちになってみます。

ゆっくり、大きく見えるように。鼻や耳がよく動くことがわかるように。高い枝の葉を食べたりもしてみます。

「大きいと、高い所のことば簡単だけど、足元のことはたいへん。恐いものは少なそうだけど、俊敏さはないな」



といった感想が頭に浮かびます。

ほかの参加者たちは、しゃがんで飛び跳ねたり、部屋の隅のほうで何かにつかまったりしています。床を這っているひともあります。

ふと、メスであることを思いだし、どう表現するべきか悩みます。象のメスらしさとは？ 悩んでいるうちに時間切れになり、アンディさんの声がありました。

「実はそれぞれの動物には、オスとメスがあります。全員そのまま、自分とペアになる相手を探してください。声はまだ出さずに、動きだけで判断してください」

さっそく、「オスの象」探しをはじめます。予想をつけたひとの近くへ行き、耳をパタパタさせて合図をします。相手も同じしぐさをしてくれるところを見ると、どうやら同じ、「象」のようです。うれしさのあまり思わず抱き合い、いっしょに座ります。

全員が座ったところで正体を明かし合おうと、やはり相手は「オスの象」でした。大半はペアを見つけられたようですが、なかには違う動物同士のペアもあるようです。アンディさんは、「いまのはジェンダーのゲームです。動物はしぐさや行動でオスカメスカはわかりません。みなさんは「オス」や「メス」をどう捉え、表現しましたか？」

参加者から挙がった声はせいぜい、「自分はオスの役だったので、強そうにした」というもの。実はほとんどのひとが、性差の表現には悩んでいたようです。「オスらしさ」や「メスらしさ」は、人間だけが刷り込まれているものだと

自分や他人の感情を

ことばにする 演じてみる

■「抑圧」を話し合おう

ゲームのようなさまざまなワークのあと、車座に座っている参加者たちに、アンディさんが問いかけます。

「みなさんは、「抑圧」ということばを聞いて、どんなイメージが浮かびますか？」

つらい、争い、押さえつける、黒っぽい、命令される、社会、家庭、ルール、束縛、組織、上司、「ほっといて!」、義理の母!……

ときどき、笑いや同調の声が交じりながら、たくさん意見が出てきます。アンディさんはそれをすべて、ホワイトボードに書き出していきます。

イメージが出尽くしたところ、アンディさんは話し出しました。

「世の中にはいろいろな抑圧があります。目に見えないものもあります。も

しも、いまここに出た意見のなかに、

「自分は抑圧とは思わない」というものがあったとしても、誰かにとつてはそれが抑圧なのだという事実を認めなければなりません。そして、誰かが抑圧を感じているときは、社会全体でその問題と真摯に向き合わなくてはなりません。

抑圧は暴力です。ひとりひとりが受ける暴力を減らしていくことが、非暴力につながるのですから」

抑圧について、全員で話し合ったあと、参加者たちは再び、知らない同士でペアになります。そして、なるべく他のペアと離れ、自分自身が受けている抑圧、見聞きした抑圧について話し合います。もちろん、話したくない内容は話さなくていいし、名前や場所は伏せても構いません。

